



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察 : Walworth County を対象としたギャルピン、 コルブらの研究成果を中心として
Author(s)	三谷, 鉄夫
Citation	北海道大学文学部紀要, 15(2), 29-65
Issue Date	1967-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33316
Type	departmental bulletin paper
File Information	15(2)_PR29-65.pdf



アメリカ社会学におけるサービス
施設の研究に関する考察

——Walworth County を対象としたギャルビン、
コルブらの研究成果を中心として——

三
谷
鉄
夫

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察

——Walworth County を対象としたギャルピン、コルプらの研究成果を中心として——

三 谷 鉄 夫

- 一 はしがき
- 二 ギャルピンの研究（一九一一年—一九三三年）
- 三 コルプとボルソンの第一回追跡研究（一九二九年—三〇年）
- 四 コルプとデエイの第二回追跡研究（一九四七年—四八年）
- 五 むすび

一 はしがき

ここでとりあげる「サービス施設 (service institution)⁽¹⁾」に関する研究はアメリカ社会学において独自の研究領域を確保しているというものではない。それは、農村社会学、都市社会学、人間生態学、教育社会学、社会心理学、人口研究などの諸領域において個別的、分散的にふれられてきたものである。しかし、農村社会学、都市社会学、地域社会学、人間生態学のごとく、主として人間の集落社会にかかわる研究分野においては、サービス施設の問題は一つの重要な部門とならざるをえない。なぜなら人間の集落社会の構造を明らかにしようとすれば、必然的にそこに存在

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察

し、機能している各種の社会的施設の構造分析に向かわざるをえないからである。サービス施設を媒介として成立している社会関係と生活連関の事実を明らかにしてこそ、社会生活の構造もその変動過程をも把握しうるといえる。われわれが、サービス施設研究に意義を求める積極的理由はここにある。

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究のなかで実り豊かな成果をあげてきた研究分野は農村社会学と都市社会学である。研究方法の面でいずれも生態学的手法を採用している点では共通しているが、前者は主として特定地域を対象としたインテンシブな研究に重点をおいているのに対し、後者では全国的規模の事業所、人口等の資料を基礎にし、これに統計分析を加えた研究が多いという特色をもっている。⁽²⁾これらの諸成果について全般的な検討を加えることは興味深いことであるが、それについては他の機会に譲り、ここでは、アメリカ農村社会学においてこの研究の道を拓き、Wisconsin 州の Walworth County をフィールドとして行なったギャルピン (Charles J. Galpin) の研究⁽³⁾およびこれに誘発されて再度の追跡調査を試みたコルブ (John H. Kolb) らの研究⁽⁴⁾について若干の考察を試み、サービス施設研究の意義を明らかにすることとしたい。

ギャルピンおよびコルブらの研究はこれまで主として村落共同体論の視角から評価されてきた。⁽⁵⁾ギャルピンの研究はたしかに、その表題が示すように、農村共同体の構造を明らかにしたものである。しかし、この研究において、かれが用いた具体的な分析方法およびその結果に着目するならば、それがサービス施設に関する理論を多分に含んでいることを理解しうる。

農村の都市化が顕著に起っている今日、村落共同体論はもはや過去のものとして置き去られがちであるが、ギャルピンの理論およびこれを継承し、発展させたコルブの理論をサービス施設の観点から見直すことによって、これらの

研究が現在においてもなおもつづけている意義を明らかにすることがある。

注

- (1) この点、サーベス施設の定義を加えるべきであるが、以下行論のすぢむに従つて明らかにされるので、あえて省略する。
(2) 後者の例としてこのものを挙げることにする。

Amos H. Hawley, "An Ecological study of Urban Service Institutions," A S R, 6 (Oct. 1941), 629-639.

Clarence Schetler, "Relation of City-Size to Economic Service," A S R, 8 (Feb. 1943), 60-62.

Otis Dudley Duncan, "Urbanization and Retail Specialization," Social Forces, 30 (March 1952), 267-271.

(3) Charles J. Galpin, The Social Anatomy of an Agricultural Community, University of Wisconsin A E S, Research Bulletin 34, 1915.

(4) John H. Kolb and Robert A. Polson, Trends in Town-

Country Relations, Univ. of Wisconsin A E S, RB 117, 1933.
J. H. Kolb and LeRoy J. Day, Interdependence in Town and Country Relations in Rural Society, Univ. of Wisconsin A E S, R B 172, 1950.

(5) 鈴木栄太郎「基本的地域社会の研究に就て」郷土第三号、昭和五年。

喜多野清一「農村における共同社会関係と近隣関係——米国農村社会学の基本問題」社会学研究第二輯、昭和十一年。

森岡清美「アメリカ農村社会学におけるルーラル・コミュニティ論の展開」村落社会研究会編『村落共同体の構造分析』時潮社、昭和三十一年。

塚本哲人「農村社会学に関する若干の問題」東北大学教育学部研究年報第七集、昭和三十四年。

二 ギャルピンの研究(一九二一年—一九三一年)

ギャルピンの計画にもとづくWalworth Countyの調査は一九二一年八月から一九二三年七月にいたる二年の年月を費して行なわれた。研究のフィールドをWalworth Countyにもとめたのは問題を込み入らせるような大都市が郡内にはないこととWisconsin州のなかでもっとも古い郡の一つであり、州の古い農業地域のなかでも典型的なもの

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察

と一般にみなされていたことによる。

Ⅰ 調査対象と施設項目

(1) 調査対象集落の分類

調査対象には郡内にある一二の都市的集落が選定されたが、それぞれつぎのような性格をもっている。(括弧内の数字は集落の人口である)

A 小都市群——基本的には village 型

Delevan (二四五〇)、Elkhorn (一七〇七)、Lake Geneva (三〇七九)、Whitewater (三二二四) の四市がこの型に属する。これらの集落は市制を施いて都市的理想をかかげてはいるけれども基本的には現在もなお農業的であり、village 型のままである。注目すべき点としては、これらの中心地において都市型の工業が起りはじめていることである。

B 典型的 village 型

Darien (約五〇〇)、East Troy (六七三)、Genoa (七〇九)、Lyons (約五〇〇)、Sharon (八七九)、Walworth (七五五)。これらの六集落は都市へ飛躍的發展をなすための展望をもたない典型的 village 型の中心地である。右のほかに、ほとんど village 型に等しい中心地に Honey Creek (約二〇〇) がある。そこには、銀行、一年制高等学校、貯木場、鉄道などの施設がある。

C 一商店型

Millard (約七五) は一商店型の neighborhood center であり、集乳所、学校、教会を備えている。数多いこの

種の集落のなかから Milling 村を調査対象に選定したのはこれが有効性と典型的性格をもっているからである。

(2) 調査にとりあげた施設項目

農村家族と都市的集落との関係を把握するための指標として用いた施設の項目はつぎの八種である。

銀行、衣類、食料品、集乳所、高等学校、教会、新聞、図書館

Ⅱ 施設のサービス範囲

一二の都市的集落にある各種の施設についてそれぞれ利用しているものを挙げて、これを図示し、各施設の利用範囲を明らかにした。その結果、衣類と食料品の区域はほとんど一致して、一二の商取引区域を見出したほか、銀行一、地方新聞七、集乳一二、教会一二、高等学校九、図書館四の区域を析出した。

施設それぞれについてみると、一つの区域が他の区域と競合せずに独自の利用圏をもつばあいもあるが、同種の施設に対して、二つ以上の区域に属する農家が含まれていて、区域の重なり合いが起っている。このように、区域が重複している共通の区域を中立地帯 (neutral ground) と名づけた。

(一) 商取引圏

都市的集落を中心として、その周辺にはこれと規則的に商取引する農家を含む地域圏すなわち商圏が存在している。一二それぞれの商圏の形態は不規則な道路、湖、沼地そしてまちまちな中心地間の距離などの要因が作用しているために不規則である。

商圏内の農家数は中心集落内の戸数とほぼ同数である。農家がいずれの中心地と規則的に商取引するかを決定する最大の要因は接近の難易 (accessibility) である。隣接している中心地は幾分か重なりあう傾向にあり、一ないし

二マイルにわたる中立地帯、共同商取引区域を形づくっている。Delexan のように大きく、ほぼ完全に近い商取引中心地のばあいには Millard とか Darien のような隣接の小さな、ないしは比較的不完全な商取引中心地の周辺の大部分の地域を包摂することが起りうる。

さらに、商取引区域は町区 (township)、郡、州などの行政範囲を無視して形成されている。町区が一つの商取引区域内に完全に包含されている例は Whievater のばあいのみに限られるし、商圈が郡の外へ逸脱せず、郡内で構成しているのは一二の区域のうち三にすぎない。郡の南部にある四つの区域はまた Illinois 州にまでおよんでいる。

同一の商取引区域にある農家は village center に通ずる四ないし六の主要道路を他の外延的な道路網よりかなりひんばんに利用する。これらの家族の間には明らかに、少くともお互いに通ずがりの面識があるし、中心地では全区域からの農村家族と時折出会う。中心地での商取引区域の人々の面識範囲は個々の農家にとって、他の区域の範囲よりも広い。

同一の商取引区域にある都市的集落の家族と農場家族とは同一の商取引施設、とくに食料品と衣類の販売において、相当程度共通の利害 (a common interest) をもっている。

商圈の大きさについていえば、その拡大と縮小を支配している諸要因は village center の数、大きさおよび効率 (efficiency) である。

(二) 銀行利用圏

銀行区域は商取引区域のばあいと同様に、銀行のある都市的集落の周辺農家群を含み、しかも行政区域となんらかわりなく形成されている。銀行区域を共にしている農家はしばしば同じ道路を利用し、これらの農家に対して銀行

経営の方針が共通に作用しているし、かつまた、同一の区域内にある農村と都市の家族は銀行管理と政策において共通の利害をもっている。

（三） 地方新聞購読圏

地方新聞は完全な都市の中心地にとって不可欠なものである。一二のうち七つの中心地で新聞が発行されている。形態的には、新聞購読区域は商取引や銀行の区域に従っている。農村家族の過半数は地方新聞を購読している。

（四） 集乳圏

牛乳処理工場は一般に neighborhood の規模で組織され、小さな工場が農場地帯に散在している。しかし、一二の都市的集落にも比較的規模の大きな牛乳処理工場が存在している。この集乳区域は商取引区域に基いてはいるもの、それよりもはるかに狭小である。今日、乳製品工業の都市的集落への集中化傾向には顕著なものがある。数年足らずして、どの集落でも都市の工場へ牛乳をトラックで運ぶことになるであろう。

（五） 教会圏

農場地帯には neighborhood 型や人種集落型の小さな教会が多い。hamlet にさえ少くとも一つの教会はある。それにもかかわらず、民主的な village の教会は五、六マイル離れた地域に住む農場家族を信者にかかえている。また、village の牧師が農場地帯の教会を一つか二つ兼任している例は決してめずらしくはないし、かかる慣習は同一の商圏に属する都市的集落と農村とを一層強く結びつけている。

他方において、人口が少なく、商業施設にもとばしい不完全な都市的集落のなかには特定の教派に属しながらも一般には“community church”とみなされている単一の教会をもっているところがある。

(六) 高等学校通学圏

いくつかの例外を除けば、高等学校の通学距離は五マイル以上におよんでいる。実際にはどの農家からも日帰りできる範囲内に高等学校が設置されている。

郡全体としてみたばあい、農家の子弟の高等学校進学率は一五割以下である。従って、高等学校通学区域は商取引区域や銀行利用区域よりも狭いのに加えて、区域内の農家が高等学校を利用する比率は商店や銀行の利用率よりものはるかに低い。

農家の子弟の高等学校進学率がかくも低いものにもかかわらず、各高等学校から二マイル以内に含まれる農場家族の大多数が高等学校の価値を認めている。高等学校は理想と共同組織を形成するさいの代理者としての性格をもち、農村と都市の子弟を民主化するうえに大きな役割を果す。従って、もし、農村の子弟と小都市の子弟に対して、学科の適用や課程の選択などの面で統制を加えるようなことが起るとしたならば、両者を協同に導くことは困難となるであろう。

(七) 図書館利用圏

多くの農村家族には図書館を自由に利用する特権が与えられており、事実、利用圏内にある農家の三一割がこの特権を行使している。高等学校通学圏が拡大すればおそらく図書館の利用圏もそれに対応して拡大する。

各種施設の利用圏を右のように明らかにしたのち、ギャルピンは現実の生活範囲と行政範囲との差異について言及している。

一二の都市的集落のうち、四つの小都市と四つの village は自治権を保有し、公的にすなわち法制上、それぞれ独

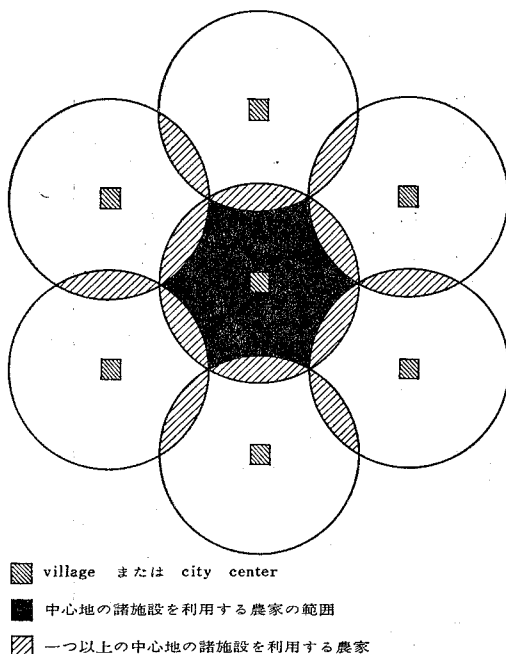
自の community として取扱われている。しかしながら、さきにみたごとく、かかる集落の主要な施設が農民によつても利用されており、都市的集落の諸施設は各集落周辺のある程度確定しうる固定的範囲の地域に対する社会的サービスの機関であり、また、この社会的サービスは都市的集落の自治範囲内に住む職人、雇傭者、専門的職業従事者などにもたらされるものと同じ性格のものであり、さらに、都市的集落の居住者は事実、他のどここの地域のことよりも特定の周辺農場地域の基盤の維持、発展に強い関心を抱いている。

かくて、つぎのような結論に到達する。比較的完全な農業都市的中心地を取りまく商取引圏は人間生活のからみ合いが全く単一の相互関連体系に還元されるような現実の（非行政的）community の境界線を形づくっている。

かれはまた、かかる現実の community の形態を図式化することを試みた。その構想においては、各都市的中心地の大きさと人口、完全な施設の保有、中心地相互間の距離、中心地と関連のある農家までの道路条件の諸点がすべて等しいことを前提としている。これらの前提条件をふまえると、community は農業都市を中心とした円状のものとなり、その半径は二つの中心地間の距離の半分よりもやや長い。円内に全農業地域を包含させ、かつ中立地帯を最小にし、中心地間の距離が等しくなるように配列した理念図が描かれた（第1図）。

すでに、この研究に着手する以前に、ギャルピンは農村生活の体験を通じて、都市的集落と農村家族との交流が心地の諸施設を媒介として行なわれ、かれのいう“Rurban Community”が形成されつつあるという確信を抱いていたのであるが、右の研究はこの仮説を十分支持したのである。かれが分析の用具として用いた生態学的方法是、その後、多方面に影響を与え、農村社会学の分野はもとより、都市社会学の領域を開拓するうえに、大きな役割を果たした。⁽¹⁾

第1図 農村社会の理論的形態



C. J. Galpin, *The Social Anatomy of an Agricultural Community*, 1915, p. 17.

というのである。一般商取引は相互関係の体系を描くのにもっとも有効な指標であるとみたのである⁽²⁾という理解が正しいといえよう。そして、ギャルピンの力点が「相互関連の過程」におかれていたとみることが正当であるとするならば、その後の社会変化に対する鋭い洞察を加えた卓見といわねばならない。ギャルピンがこの研究を企てた時期はブランナー (Edmund de S. Brunner) に従えばいまだ農村社会に自動車が発達する以前の時代 (Prenobile age) であり、それにもかかわらずすでに農村と都市との緊密な交流関係が発生していたのである。⁽³⁾

ところで、ギャルピンは都市的集落と農村家族とが交流する Rural Community の範囲を商取引圏に求めたのであるが、これは後に触れるように、かれの後継者であるコルブによって修正されることになった。しかし、これをもってギャルピンの理論が決定的に覆されたとみるのは誤りであって、コルブが指摘するように「ギャルピン博士は商取引のみが community を形成するとか商圏が community であるといっているのではなく、一般商取引区域が現存の community の境界線を指し示している

注

- (1) J. H. Kolb and R. A. Polson, Trends in Town-Country Relations, p. 32.
(2) J. H. Kolb, Emerging Rural Communities, 1959, p. 9.
(3) Edmund des. Brunner, The Growth of a Science, 1957, p. 13.

三 コルプとボルソンの第一回追跡研究（一九二九年—三〇年）

コルプとボルソン (Robert A. Polson) はギャルデンの研究にひきつづき Walworth County の一二の都市的集落の諸施設を対象とする調査を行なったほかに、一、〇三四の農村家族を対象とする面接調査をも試みた。その結果を一九三三年に「town-country 関係における変動」と題して発表した。ここでは、一六年間の主要な動向について、サービス圏の変化とサービス・センターの役割変化の二点に要約して報告している。

Ⅰ サービス圏の変化

まず、一二の都市的集落における七つの施設のサービス圏は一般に拡大した。この傾向は第一に、郡の全域を一層完全なサービス圏とする方向にあること、第二に、一二の比較的大きな中心地は neighborhood center や四辻の country center がそれまでサービス区域としていた地帯を侵触してきたこと、さらに、第三にサービス圏の重なり合う地域範囲が増大したことにあらわれている。そこで、各施設について具体的に変化の大きかったものから順次略述する。

(一) 図書館利用圏

一九一三年には、図書館のある中心地は四カ所であったが、倍加して八中心地に設置されている。しかも、一六年

前にあった施設についても利用圏は拡大している。一二の集落のなかで人口が最大の Whitewater を例にとると、一九一三年時の利用圏の大きさは二六・三平方マイルであった。一九二九年にいたって拡大した地域範囲は三八・一平方マイル、反対に縮小した地域が〇・四平方マイルで差引き三七・七平方マイルの純変化量を得た。これを一九一三年の大ききで割り、一〇〇を乗じて得た純変化率は一四三・三割となった。この比率は八集落を含む全地域の純変化率とほとんど一致している。

(二) 集乳圏

各種の乳製品工場が小規模な中心地から大規模な都市的集落へ移動してきている。この移動を惹き起したものは道路の改良、トラック輸送の増大、工業支配の集中化傾向などである。集乳圏がもっとも拡大したのは Elkhorn のばあい、そこには親工場と中央事務所とがあり、三カ所の小さな中心地に支所をかまえている。これに対し、一二の都市的集落のなかでもっとも人口規模の小さい Millard にあった工場は姿を消したほか、village 型の集落である Darien の集乳圏はマイナス五割の純変化率を記録した。集乳圏の変化率のうえてマイナスを記録したのはこの二集落だけである。

(三) 高等学校通学圏

全農場家族の五〇割の抽出調査によれば、農家の子弟の高等学校進学率は一六年前には一五割にも満たなかったものが、三八割に上昇した。そして、高等学校通学区域の拡大化がこれに伴い、village 型の Genoa の例を除けば、他の八集落では五割ないし一九〇割の純拡大率を示し、全体では四八・七割拡大した。

一方において、郡内の各農村地帯にはいぜんとして小規模の小学校が統合されないままに存続している。過去一六

年間に統合のため閉鎖した小学校はわずか一〇校に過ぎず、一教室、一教員の施設がまだに九四校もある。

高等学校通学区域が拡大したのは行政区域の変化に基づくものではなく、社会的有用性の観点から必然的に起ったものである。しかし、教育に対する行政の管轄は都市的集落と農村とにそれぞれ分たれている。農村の人々の側には自分たちの伝統的サービス施設を固守しようとする態度がみられ、これが都市と農村との統合を妨げているし、また、これを外部的な社会的強制力によって推進しようとするような州行政もない。Walworth County における高等学校や小学校の非統合化の状態は州の一般的傾向を代表したものであるが、合衆国全体の動向にてらしてみればむしろ例外に属する。

(四) 食料品購買圏

食料品購買圏の重複する範囲が拡大した点も大きな変化の一つである。前回の調査では八二平方マイルあった中立地帯は二倍以上の一八一平方マイルとなった。これと同時に、施設の性格にも変化が生じた。人口七〇〇人以上の中心地には連鎖店が入り込み、これが従来の商圏を継承している。また、neighborhood や四辻の店の多くは存続しているが、従来の雑貨店方式から脱脚して、農場の店は農家の主婦向けに、四辻の店は都市の主婦を対象とするというように性格を変えた。そこで取扱っている商品は罐詰類、アイスクリーム、菓子、野菜、果物、食肉などの食料品とタバコのほか、作業着、ガソリン、鳥のえさなどの農家の日用必需品である。農場地帯にあるこれらの商店は毎日トラックで商品を運んでくる都市の卸売店と密接な関係を取り結んでいる。従って、食料品のサービスは農場家族——農場地帯の商店——village や small town——都市の中心地——へと拡がる一つの社会組織を形成している。

(五) 教会圏

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察

農場地帯内にある三一の教会のうち、過去一六年間に閉鎖したものはわずか一教会だけで、他は以前と変りなく neighborhood を基盤として、宗教的および社会的機能を果している。かかる活動的農村教会の圏内に居住していながら都市的中心地の教会に通うものは例外的なものを別にすれば、まずないといつてよい。

(六) 衣料品購買圏

衣料品の販売は neighborhood レベルの雑貨店型の商店から比較的大きな、より完全な service center の近代的衣料品店、専門店、都市のデパート、通信販売店などに移譲している。

食料品や衣料品に対する人々の欲求は急激に変化しているために、商店や施設内容の改善はなかなかそれに適応できないでいる。これまでのような自家製のごく定まった型や雑貨店にある標準型の衣類ではなく、各種の既製品類を専門店で取扱うようにという要求が強い。地理的距離で測定しうるような接近の難易はもはや農場家族や都市家族の購買活動の頻度あるいは規則性を決定するさいの重要な因子ではなくなりつつある。日用必需品は現在も四辻の商店にあるし、エプロン、家庭着、通学用の子供服、作業着などは village や small town で買い求めることができるが、紳士服、婦人服、帽子、靴、外套などはさらに大きな town か Janesville, Beloit, Racine, Milwaukee, Chicago のような大都市でなければ得られない。

衣料品と食料品のサービスにこのような変化が起ったことによって、前回の研究で扱ったように、この二つを一般商取引として結びつけることは不可能となった。そして、都市と農村との関係の一体化をはかる指標として、商取引の慣習や行動よりも高等学校のような施設に対する社会的接触や参加の方が重要な意味をもつにいたった。

(七) 銀行利用圏

銀行利用圏の拡大範囲と縮小範囲とを対比してプラスを示したのは五中心地、マイナスを示したのは六中心地である。前者は比較的大きな中心地のグループに、後者は小さな中心地のグループに集中する傾向を示している。つまり、中心地の大きさやその中心地に集合しているサービス施設の種類における量的、質的差異が銀行利用圏の拡大、縮小に関連している。従って、各種の service center の役割上の変化が問題となる。

Ⅱ サービス・センターの役割分化

Walworth County の農場家族は一家族当り平均四(正しくは三・七四)中心地を利用している。その四中心地とは通常つぎのものを指す。一、四辻、hamlet ないしはきわめて小さな village center 一カ所、二、village または小さな town center 二カ所、三、urban center 一カ所である。このほか通信販売店をも利用している。ところで、これらの中心地を類型化するとつぎのごとくである。⁽¹⁾

(1) サービス・センターの分類

第一型 Rural ないしは Country Center

第二型 Rurban ないしは Town-Country Center

第三型 Urban ないしは City Center

第一型 これには neighborhood 四辻の中心地、hamlet あるいは小さな village center が含まれる。四辻や neighborhood の中心地は農場家族が個人的および社会的に接触しあう集会所としての機能を果しつつづけている。一九二〇年は家族を基礎として組織した型の社会集団にとって全盛期であった。一九二二年から一九三二年までの間に組織されたクラブが二〇で、そのうち九は一九二九年においても活動しつつづけているが、一一は一九二六年以前に活動

を停止している。

家族型の近隣集団に加えて、男女各々の社交クラブや青少年少女たちのクラブが組織されている。一九二六年には総数四一を数えた local な社会教育的組織のうち、現在も活動を継続しているのはその半数の二一である。

牛乳処理工場を中心として集合していた local な経済組織は小さな中心地から移動して、大きな単位となり、経営の本拠、あるいは会合の場所として大きな village や town 中心地を利用する傾向にある。この傾向は集乳圏の拡大と軌を一にしている。

四辻、hamlet およびごく小規模な village の country center は農村家族に対する特定商品の販売所としての性格をもちつづけている。新しい道路体系に対応して生まれた商店は食料品販売店として近代化し、専門化している。ここでは、ガソリン、若干の衣類、農機具など農家の必需品をも取扱っている。

小学校と教会もまた、country center に特徴的な施設である。

つまり、country center は限定された商品の販売、社会的活動、第一次的教育および宗教サービスにとって重要な場所である。かかるサービスが local neighborhood や hamlet center に組織されているからといって、田舎の人々の関心がすべてそこに集中しているということ意味するのではない。たとえば、neighborhood の旧来の境界線は local な社会組織の成員加入の範囲と必ずしも一致していない。組織の活動には近隣の village などから参加する人々も多い。換言すれば、local な集団は今日、比較的一定の地域的範囲に住む人々とさらに広範な地域の人々の特定の関心あるいは活動に基づいて組織されている。

第二型 town や village は農村家族が要求する施設の多くをそなえた主要な中心地としての性格を以前にもまし

て強めている。そして、town と country とは大きな農村社会を形成すべく連合する傾向にある。この型の中心地のあるものはその立地条件、サービス圏の大きさ、人口、工業、あるいはまた中心地自体の人口の量や質などに依存しながら他の中心地に比較して一層完全なサービスを供給している。そこにある施設について農村家族による利用度の高いものから順に挙げると、各種食料品、銀行、仕事着類、農機具、週刊新聞、牛乳処理工場、男性用装身具類、家具、音楽演奏会、教会、高等学校などである。さらに大きな中心地には、映画館や婦人服店もある。人々が地方の town や village を利用しつづける主たる理由は至便なこと、習慣によることのほか、銀行や高等学校のような施設に対する依存度が高くなってきたことにもよる。

town center にはつぎのような変化が起っている。その第一は旧来の雑貨店型の商店がより近代的専門的な商店にとつて代えられたことである。古い型の商店では商品の種類が少いのと商品が高すぎるので、ここでは買物をしないのだと人々はいっている。衣料品店と既製服店は通信販売や都市のデパートからの競争に直面しながら商売を存続させようと努力している。

映画と音楽演奏会は過去一六年間にあらわれて人気を呼んでいる娯楽サービスである。

ところで、ギャルビンの研究においては、商圏が town と country とを結びつけるさいの重要な因子であると考え、教育的、社会のおよびわずかではあるが宗教的な結びつきの方が一層重要なものになってきている。

第三型 農村家族が都市の施設に直接かわるのは通信販売を別とすれば、婦人服、男性用装身具類、衣料品、専門医療、娯楽などである。都市中心地からの衣類の購買率は種類が豊富なこと、サービスがよく価格が安いことなどの利点から増加している。

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察

この傾向を推進している社会的要因がある。農村家族と都市の知人、親戚との社会的接触は著しく増加している。七五の農村家族を対象とした調査によれば、都市中心地へ出掛ける回数は平均月一回である。また、都市に就職する農村青年の数も増加し、一三六家族のうち三八ケースであった。このような現象が農村と都市との直接的な結びつきをもたらししているし、それに加えて、夏期を田舎で過す都会人が次第に増加し、その関連を一層強化している。このようになると、農村の人々はよりよき生活環境にするためには、これまでと異った新たなサービス基準が必要であると感じ、それを求めることが結果として起ってくる。

通信販売サービスは都市との間接的な接触である。そこで扱っている商品は若干の衣料品、男性用と女性用の仕事着、子供服、自動車タイヤ、金物などで、以前に扱っていた食料品は *town* や *village* に設置された連鎖店の影響によって姿を消した。農民が通信販売を利用する最大の理由は価格が安いからである。

(2) サービス関係の変化を惹き起した諸要因

右のような三種の中心地におけるサービス関係の変化はどのように説明できるであろうか。

この変化の主導的役割を演じたものはコミュニケーションと輸送施設である。アイデアと接触は結合関係を拡げるさいのつなぎの役目を果たした。新しいアイデアと経験は欲求と願望の基準に影響を与える。そして、新しい基準は購買行動や慣習に影響する。新しい慣習とはここでは大きな *service center* を求めることを意味する。さらに、新しい中心地はアイデアと接触を増大させる。しかしながら、交通やコミュニケーションの諸機関の利用増によって、*local* な中心地とそのサービス施設が完全に没落するとか消滅するとかいうのではない。

一九一九年以降に舗装された道路の延長は郡全体で一五六マイルである。改良道路、舗装道路の受益戸数の比率は

九〇割にものぼる。

自動車は一九一三年において、総数六九〇台で四三人に一台の割で所有していたのが、一九二九年には三人に一台と上昇した。農家の九〇割が自動車を所有している。

日刊新聞については、一九二九年には農家の八五割が購読しており、そのうち四四割強が一九一三年時の購読者である。また、八五割の内訳は五〇割が Chicago や Milwaukee のような大都市の新聞、三五割は比較的小さな都市中心地発行の新聞購読者である。

電話を取付けている農家の比率は八〇割である。これは田舎や近隣の街との社交や商取引に直接役立っている。一九一三年以降において導入されたラジオは一〇戸中七戸にある。その大部分は過去五年間に買い求めたものである。ラジオはすでに大部分の農村家族において生活必需品として受けとられている。

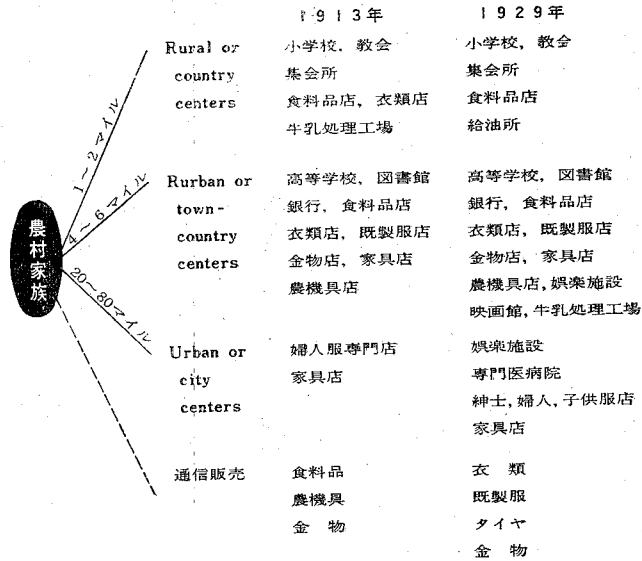
すでに触れたように、旅行、買物、訪問などで他の town や urban center に出かける個人的接触の機会は著しく増加した。また一方、保養やレクリエーションのために都市から農村へ向う人の数も増加した。

サービス・センターの役割上の変化を要約すると第2図のごとくなる。

Rural なじしは Country Center は neighborhood、四辻、hamlet あるいはきわめて小さな village の形をとっており、それは四辻の周辺の人々に対して、食料品、小学校、教会、集会所などのサービスを供給している。小学校や教会はより大きな単位に統合しようとする努力しながらも、いぜんとして小さな local な範囲で組織されたままである。

Rurban Center は village, town あるいは小都市の形をとり、真の community center となっている。それは、

第2図 農村家族とサービス・センターとの関係



アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察

J. H. Kolb and R. A. Polson, Trend in Town-Country Relations, 1933, p. 28.

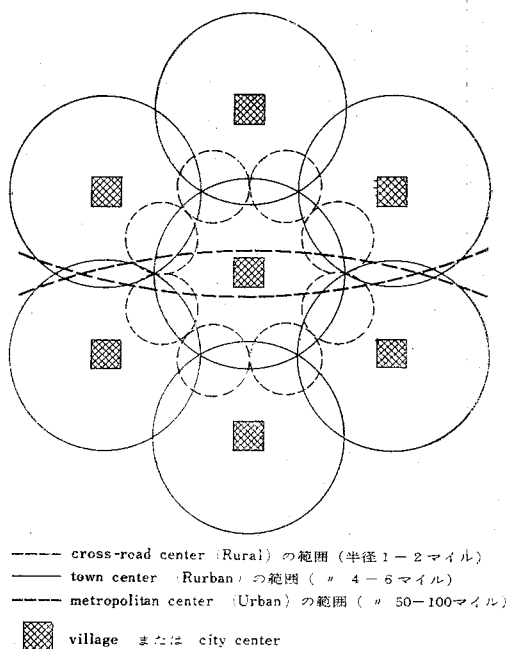
高等学校、図書館、娯楽などの社会的、教育的サービスと商取引、銀行を備えた主要なセンターである。これらのサービスは範域として周辺農村全域を含み、それに加えて近隣の家族や四辻とか hamlet の中心地を近くにもたない家族に対しては第一次センターでもある。

Urban Center は都市や大都市の形をとり、専門的商品、医療施設、娯楽などのサービスをもつて、多くの農家と都市的集落を対象として成立している。それらの諸施設と各家族との直接的な接触のほか、都市的中心地は連鎖店、銀行の本支店、牛乳処理工場、映画フィルムなどの配給など、地方の town にある施設、系統の支配を通じて農村に対し大きな影響を与えている。とくに間接的な接触と支配は一九一三年以降において顕著にあらわれたものである。また、規格品を取扱っ

ている通信販売は安価なことが購買を動機づけている。

以上の分析で明らかのように、サービス施設の専門化を通じて中心地は分化し、農村と都市との相互依存関係が強

第3図 サービス圏の理論的形態 (1931年)



Kolb and Polson, *ibid.*, p. 31.

まってきたっている。また、neighborhood center であれ、より大きな town-country の community center であれ農村のサービス・センターはもつとも適合したサービスを形づくるために再組織し、再調整を遂げつつある。コミュニケーションと交通の自由な現状において、ほかにとるべき手段はない。そして、こうしたなかで、それらの中心地は都市中心地とますます相互依存的となってきた。しかしながら、この過程は都市化といえるものではない。なぜなら、それは country や小さな town 地域の都市化でもなく、都市地域の農村化でもないからである。都市の施設や機関もやはり接触地域を拡大するためにサービスの方法を変えている。Urban Center は Country Center が食糧の供給や人口の補充の面で都市社会に依存している以上に農村社会に依存している。

この相互関係を理論的に形式化したのが第3図である。細い点線で描いた小さな円は半径一ないし二マイルの小さな neighborhood、四辻、hamlet 型の中心地のサービス圏をあらわしている。つぎに大きな太線の円はギャルピンによる一九一三年時のものと同じRurban型のサービス圏を示したものであり(第

アメリカ社会字におけるサービス施設の研究に関する考察

1 図参照) すべての領域のなかでもっとも重要であるという点では変りないが、それはギャルピンが指摘しているような完全な、もしくは自足的な単位を形づくってはいない。その半径は小さな第一次的単位のほぼ五倍、すなわち約五マイルである。太い点線の円弧はより大きな Urban Center の影響圏を暗示している。その半径は Rural Community の五ないし一〇倍、すなわち五〇ないし一〇〇マイルである。

注 (一) この類型化はつぎの論文で発表した「サービス施設の

び The Urban and Highly Specialized type である。

型によるサービス・センターの類型」における五分類に基づいている。その五分類とは The Single Service type, The Limited, Simple Service type, The Semi-Complete or Intermediate type, The Complete and Partially Specialized type である。

J. H. Kolb, Service Relations of Town and Country, Univ. of Wisconsin, R B 58, 1923, pp. 5-6.

四 コルブとデエイの第二回追跡研究(一九四七年—四八年)

第二回追跡研究はコルブとデエイ (LeRoy J. Day) の手によってまとめられ、「農村社会における Town と County との関係の相互依存」と題して、一九五〇年に発表された。

ギャルピンの調査が行なわれてから三四年、コルブらによる第一回再調査以後、一七年の期間を経過しているが、サービス関係にはどのような変化が起ったであろうか。この時点における分析の主眼点はサービス・センターの役割構造のその後の変化を一層吟味することにあつたので、これを明らかにするためのインテンシブな方法が採用された。

I 接触とサービス・センターの分類

(1) 接触の分類

かれらは一、六二五家族を対象とした調査から施設に対する二〇、〇〇〇の接触 (contact) を得た。これらはつぎの一八種の接触にわかれたるが、これを分析の目的から四つに区分している。⁽¹⁾

A 一般的接触

食料品、教会、高等学校、銀行、図書館、週刊新聞

B 社会的接触

クラブ、教会、パーティ、ダンス

C 商取引接触

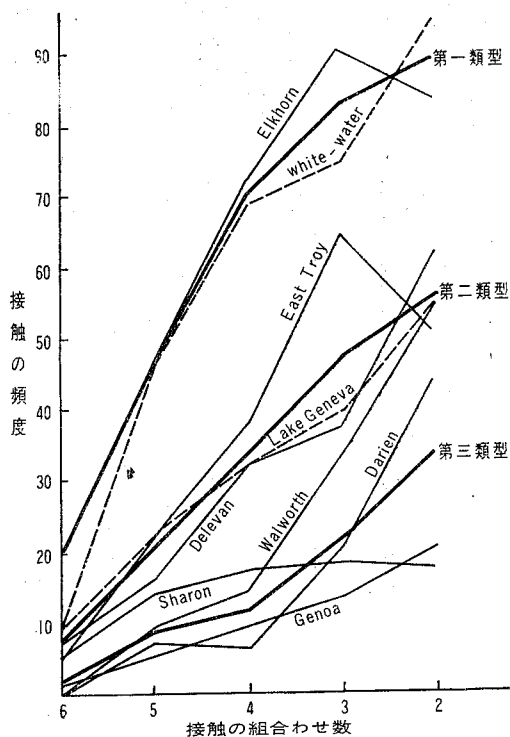
雜貨、食料品、仕事着、紳士服、婦人服、農機具、家具

D その他の接触

映画、牛乳処理工場、日刊新聞

これらの接触と関連した中心地は Walworth County の内にあるもの二八、外にあるもの一五、あわせて四三である。これには Millard とか Troy Center のような hamlet center から Chicago や Milwaukee のような大都市およびギャルピン以来調査の対象としてきた一二の中心地が含まれている。この一二の中心地のうち、第一型すなわち Rural ならう County Center に属する三中心地を除いて、残る九つの第二型すなわち Urban ならう Town-Country Center をインテンシブな分析の対象とした。すなわち Whitewater, Elkhorn, East Troy, Lake Geneva, Delvan, Walworth, Darien, Sharon, Genoa City の九中心地である。これらの中心地の利用量は接触総量の五三%

第4図 施設との接触の組合わせとその頻度を
基礎とした、中心地の類型化



J. H. Kolb and L. J. Day, Interdependence
in Town and Country Relations
in Rural Society, 1950, p. 16.

アメリカ社会学におけるサービス施設の研究に関する考察
に当り、一般的サービスの接触の面では全体の七四割にのぼる。全体の傾向を反映していると思われる六つの一般的サービス接触の分析からつぎのような結果を得た。
まず一般的接触の総量についてみると、首位は Elkhorn で三二八、ついで Whitewater 二九二、第三位 East Troy 一七八、四位 Lake Geneva 一五六、Delevan 一五三、Walworth 一一〇、Darien 七七、Sharon 七一、最下位は Genoa City 四八である。

また、一般的接触総量を接触の組合わせの数に分解してみると、たとえば Elkhorn のばあい、六種の組合わせからなるもの二八、以下五種四六、四種七一、三種九〇、二種八三である。九中心地について、この分布をグラフで示したのが第4図である。
これによると、Elkhorn と Whitewater の二市は圧倒的に他の中心地をリードしてい

る。また、East Troy では組合わせ二種の数はいくつか、ほかの組合わせにおいて Lake Geneva および Delevan と類似した傾向を描いている。Walworth はこれら三中心地とよく類似しているものの、六種のもの皆無で、五種の組合わせにおいても一段と低下している。Darien と Genoa City のばあいも五、六の組合わせが低い。これに対して、Sharon は五、六の組合わせでは強みをみせているが、全体の接触量が少い。この中心地に接触の集中化がもたらされたのは、それが比較的孤立状態にあるためである。

(2) サービス・センターの分類

九つの曲線を標準化すると三つのグループが成立する。(括弧内の数字は一九四〇年の人口である)

第一類型 比較的大きな中心地

Elkhorn (二三八二)・Whitewater (三六八九)

第二類型 中間的な中心地

East Troy (九二五)・Lake Geneva (三三三八)・Delevan (三三四四)

第三類型 比較的小さな中心地

Walworth (八七五)・Darien (六〇〇)・Sharon (八一二)・Genoa City (七一五)

これらの類型間に有意差があることはカイ自乗検定によって証明された。

前回の研究のさいに、九中心地のうち、Elkhorn, Delevan, Whitewater, Lake Geneva の四中心地は「完全なサービス・センター」として区分され、これらの間に有意差はみとめられなかった。同様に、East Troy, Walworth, Sharon の三中心地もほぼ等質的グループを構成していた。さらに、一九一一年—一三年の状況について図書館のな

い五中心地、新聞のない二中心地を除き、Elkhorn, Delevan, Whitewater, Lake Geneva の四中心地につき検定を行なったところ、その時点においては Elkhorn と Delevan とが等質的な性格をそなえていた。(第1表)

以上のことから都市的集落と農村との関係の動向について、つぎのような変化が起っていることを導き出すことができる。

一九二一年の研究は結論として、town と country との関係が発生し、真の community を形成するにいたるまで凝結しつつあることを指摘した。しかし、六つの一般的サービスすべてを供給しうる中心地は九つのうち四だけにすぎなかった。そして、それぞれ特定の範囲内での community または集団を形成する過程にあったから、農場家族が接触することのできる施設の種類にはおのずから限界があった。小学校、教会、雑貨店のある country center ないしは hamlet neighborhood center がかれらの接触の中心地であった。

一九二九年の研究における結論は農村家族と中心地との接触の量と種類が増大したことにより、都市的集落と田舎との関係は一層重要になってきたというものであった。その結果、community は影響圏を拡大し、中心地の分化が惹き起されていることが明らかとなった。Whitewater と Lake Geneva は Elkhorn および Delevan とともに「完全なサービスをもった中心地」として共通の特徴をもっていた。それに対して、East Troy はより小さな中心地を構成する一群のなかに留まっていた。より大きな中心地へ変化し、より多くの接触を獲得しようとするあらゆる努力に

第1表 各調査時点における等質的な
中心地グループ

1911年—13年	1929年—30年	1947年—48年
Elkhorn Delevan	Elkhorn Delevan Whitewater Lake Geneva East Troy Walworth Sharon	Elkhorn Whitewater Delevan Lake Geneva East Troy

Kolb and Day, *ibid.*, p. 17.

もかわらず、小さな中心地のいくつかは小学校と教会の接触が支配的なクラスに留まる傾向にあった。

それ故に、サービス施設面からみるならば、単一の中心地の自足的な方向にあるよりも中心地間における分化と相互関連がますますその度合を強めているのである。もし、自足的傾向性が優勢であるならば、一九一一年に二つ、一九二九年に四つあった「完全なサービス」の中心地がより多く見出される筈である。しかし、今回の分析によると、二中心地は第一類型、三中心地は第二類型に分化し、他の四中心地は第三類型に分散しており、明らかに自足的な方向とは逆の結果を生んでいる。

Ⅱ 各類型の施設構造

(1) 接触の種類とパターン

さきの類型化は接触の組合わせの数に基づいているが、組合わされた接触の種類は問われていない。そこで、つぎに接触の種類とそれが形づくる接触のパターンについて検討を加える。ここで問題にすべきことが二つある。一は各種の接触の相対的位置づけであり、他は各類型の中心地がもつ接触のパターンである。

一般的サービスにおける各種の接触率をみると、銀行（二三・四割）と食料品（二三・二割）がほぼ同率で上位にあり、教会（一五・九割）と週刊新聞（一五・〇割）がこれにつき、図書館（一二・二割）と高等学校（一〇・三割）はもっとも低く、銀行や食料品の約二分の一である。いずれの家族も食料品については一カ所ないしそれ以上の中心地を利用しているが高等学校通学生が必ずしもいるとは限らないからである。

ところで、これを一九一一年―一三年の状況と対比してみると、上位二者の順位には変りないが、接触率において、銀行三一・二割、食料品二六・九割で、それぞれ六・八割および三・七割高く、また、三位週刊新聞（二一・四割）

と四位教会（一一・九割）、五位高等学校（五・一割）と六位図書館（三・五割）が交代している。この数値から明らかなことは三六年間に農村の子弟の利用率の上昇によって、高等学校と図書館の地位が著しく向上したことである。つぎに、第一類型と第三類型の中心地について、銀行と食料品を除く、他の四種の一般的接触に注目すると、二つの類型間の対照的な傾向が明瞭になる。まず、第一類型の二つの中心地にあつては、各種の接触間の勢力分布が均衡を保っている。そして、第二類型の中間的中心地は Lake Geneva を除外すると、Delevan では新聞、East Troy では図書館というように、一つの施設の接触率がきわめて低い。さらに、第三類型の四つの中心地は分散しているが、いずれも四つの接触のうち、二つは低く、一つが比較的高いという特徴を共有している。Walworth では教会と図書館の接触率は低く、新聞の接触率が高い。Sharon は高等学校と図書館で低く、教会が高い。Darien では高等学校が統合のため接触率ゼロである。Genoa City では高等学校と図書館が低く、教会が高い。このような分化傾向は年々強まってきたものである。

さらに、専門的な商取引および社会的接触についてみると、一層顕著な差異があらわれている。六つの商取引接触はその接触率の高いものから挙げると、食料品、仕事着、農機具、紳士服、家具の順である。

第一類型の中心地では六つの商取引施設の項目の比率が均衡を保っている。食料品の代りに、牛乳処理施設を加えた商取引項目の接触率の順位は Elkhorn, Whitewater とともに、仕事着、農機具、紳士服、家具、婦人服、牛乳処理工場である。これに対して、第三類型の中心地においては家具、紳士服、婦人服のような項目は皆無に等しく、Darien のばあいとはとくに農機具がきわ立って高い比率を示している。

第二類型は中間的地位を占めているが、もっとも重要な点はこの型のあるものが、第三類型の中心地に対して補足

的地位に立っていることである。かかる分業が成立しているグループはつぎの二つである。

その一つは、Delevan と Darien との関係で、両中心地間の距離は三マイル、人口は Delevan 三、四〇〇、Darien 七〇〇である。五つの商取引接触に牛乳処理工場を加えた六つの項目の接触率の順位は第2表のごとくで、両者はほとんど対照的な傾向を示している。ただ、家具はいずれも同順位にある。それは、Janesville や Beloit のような一層大きな都市に集中している同種の施設と競合関係にあるために起ったものである。

補足的関係にあるもう一つの例は Lake Geneva と Genoa City のあいである。第5図によると、婦人服に対する接触は Genoa City ではほとんどみられないが、Lake Geneva では仕事着について大きな比率を占めている。家具はいずれも一定の比較的高い地位にあるが、それは Genoa City における積極的な商業政策によることと両中心地ともに競争的都市中心地から遠く距たっていることによる。

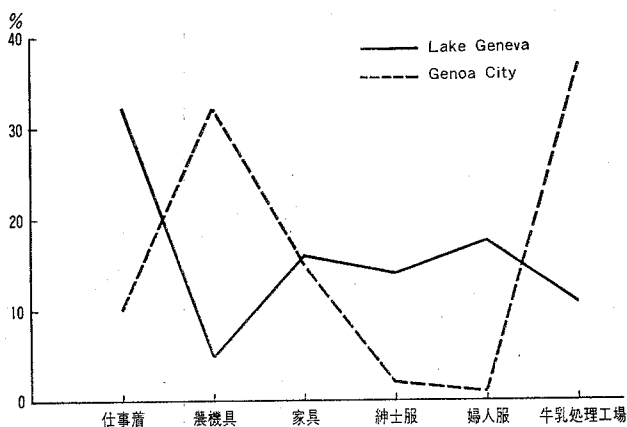
つぎに、社会的接触についてみると、その順位と比率はつぎのとおりである。映画(三五・九割)、教会(二六・九割)、クラブ(一四・九割)、パーティ(一一・九割)、ダンス(一〇・三割)。映画は第一および第二類型において首位を占めているが、第三類型では全く欠けている。これに対し、第三類型を特徴づけているのが教会とクラブである。映画と公立ダンス場によって代表される商業的レクリエーションは第一類型の中心地に属している。また、同中心地

第2表 五つの商取引接触と牛乳処理工場の接触率の順位にみる補足的関係

順位	Darien			Delevan		
1	農	機	具	婦	人	服
2	牛乳	処	理	紳	士	服
3	仕	事	着	牛乳	処	理
4	紳	士	服	仕	事	着
5	家		具	家		具
6	婦	人	服	農	機	具

Kolb and Day, ibid., p. 20.

第5図 第二類型 (Lake Geneva) と第三類型 (Genoa City) の補足的関係 (商取引接触)



Kolb and Day, ibid., p. 22.

している。

以上を要約すると、九つの中心地を三類型に分類したばあい、各種の接触のパターンが特徴的に見出される。社会のおよびインフォーマルな接触は小さな中心地の周辺に住む農村家族によって求められ、商取引接触については大きな

における教会の役割は第三類型の中心地のばあいと比較して減少

第3表 中心地の類型別にみた施設構造

第一類型 (比較的小さな中 心地)	第二類型 (中間的な中心地)	第三類型 (比較的大きな中 心地)
銀食料行 作業品 教教会 小學校 高等學 図書館 映画館 週刊新聞 農機具 男女衣類 公立ダンス	銀食料行 作業品 教教会 小學校 高等學 図書館 映画館 週刊新聞 _____	銀食料行 作業品 教教会 小學校 _____
_____	_____	農機具
_____	_____	私立ダンス
_____	クラブ	クラブ
_____	_____	パーティー

Kolb and Day, ibid., p. 27.

な中心地が分担している。このことから相互依存の過程が進行していることは明らかである。中心地相互の関係は補足的か競合的かのいずれかである。

各種の施設に対する接触率の高低の度合を基準にして各類型に特徴的な施設構造を求めると第3表のごとくなる。これは単に現状を基礎としただけでなく、過去の累積の結果をも考慮して求めたものである。たとえば、家具を第一類型から除外したのは、これがより大きな都市へ移動していく傾向にあるからである。理由は説明しがたいが、農機具は第二類型の中心地から第一類型と第三類型の中心地へ分解していく傾向にある。

(2) 接触の範囲

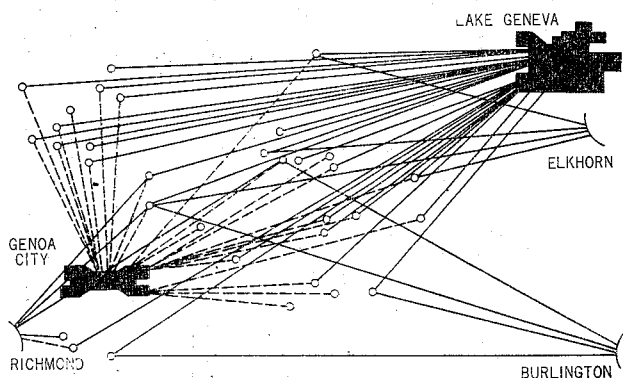
右のような状況と関連して、中心地の接触範囲について求める。農村家族がどの中心地の施設を選択するかは距離と立地条件にかかっている。

第一類型の中心地の接触範囲は施設の七〇割についていえば、七五ないし九五平方マイルで、この大きさは標準的な township の約二・三倍に相当する。また、第二類型の中心地はおよそ二つの township に相当する六二ないし八二平方マイルの利用圏を擁している。

前回の研究において指摘した利用圏の拡大傾向は一九四七年にも引続いて起つてはいるものの、その程度には限界がある。すでに大きな地域的範囲をヒンターランドにもつていた中心地はさらに利用圏を拡大しているが、一般的には、安定化の傾向にある。例外としては二つある。その一は農村の子弟の高等学校進学率の上昇に伴って、高等学校通学圏が著しく拡大したこと、他は教会へ出席する信者の範囲が拡大したことである。

一般に、利用圏の重複部分が少くなつて、利用圏の型は以前と比較して規則的でコンパクトになった。高等学校と図

第6図 社会的接触における第二類型 (Lake Geneva) と
第三類型 (Genoa City) 中心地相互間の補足的
関係を示すソシオグラム



Kolb and Day, ibid., p. 30.

パーティー、ダンス、食料品、農機具については Genoa City の施設を利用し、高等学校、図書館、映画館、衣類などについては中間的中心地である Lake Geneva に依存している。

注 (一) Kolb, *Emerging Rural Communities*, p. 112. などでは「その他の接触」を除いて三分としている。

書館は第一および第二類型の中心地に統合されつつある。高等学校の統合化が促進されたのはつぎの理由に基づいている。人口三、〇〇〇以上の中心地を除外して、少くとも South Wisconsin で生徒一〇〇人の高等学校を設立するとなれば、人口一、五〇〇は必要となる。この人口は標準的な township 一つよりも大きく、地域範囲に置き代えると約四一平方マイルに相当する。そして、各教科の教員、カリキュラム、各種の設備を十分整備するとなれば、二〇〇人の生徒が必要で、それに対応した地域的単位が要求されるわけである。この単位は第二類型の中心地の一般的サービスの接触範囲にほぼ等しく、その人口は三、〇〇〇を若干上廻る。

個々の農村家族と中心地との接触関係について、これを直線で表わすと相互依存性は一層明らかになる。Genoa City を日常の商取引中心地として利用している四一家族の社会的接触に関する調査結果は第6図のように図示できる。これらの家族はクラブ、

五　む　す　び

ギャルピンは Walworth County の研究において、農村家族と都市的集落との間に相互関連の体系が生み出されているのは、各種の社会的サービス施設に対する接触を通じてであることを発見した。この相互関連の視点はその後、コルプらの研究に引継がれて、農村社会における集団関係のパターンが推移してきた過程が明らかにされた。それはコミュニティの形成、分化、相互依存の過程である。

ギャルピンが研究を試みた一九一〇年代は農村地帯に自動車が普及する以前の時期であったから農民の生活範囲も狭い地域に限定されていた。しかし、すでに商店、銀行、図書館の利用、高等学校への通学、新聞の購読などの面で都市的集落と農村家族との接触がはじまり、両者の間に共同の利害と相互依存の関係が発生していた。かかる関係が成立していく過程をギャルピンは *urbanization* と名づけた。

その一六年後には、道路の改良、交通、通信機関の発達によって農村と都市との社会的距離は縮まり、サービス圏が拡大していた。それとともに、都市的集落相互の間には、サービス施設の機能的専門化を伴いながら、役割分化が起り、中心地は Rural, Rurban をよび Urban Center の三型に区分されたのである。

さらに、第二回の追跡研究は中心地の発展が自足的とはおよそ逆の方向を辿りつつあることを明らかにした。第二型の中心地すなわち Rurban Center はサービス構造の差異に従って、三つの類型に細分され、各類型相互間におけるサービスの補足的関係が特徴的に見出された。ここにいたって、当初にあらわれたような都市的集落と農村との間の一元的なコミュニティのパターンに代って、多元的なコミュニティのパターンが、コミュニティ内部における相互

依存の關係に代つて、コミュニティ相互間の依存關係が新たな意味をもつことになった。

中心地の施設構造に関する右のような變動を惹き起したものは何であつたろうか。コルブによれば、その主導的役割を果たしたのはコミュニケーションと交通機關の發展である。そして、都市と農村との間の人口交流、とりわけインフォーマルな接触ないしはパーソナルな交流、高等学校進学率の上昇などはサービス施設を媒介とする両集落の接觸を一層緊密なものとした。

かかる緊密な都市との接觸は農村の人々の欲求に刺戟を加え、サービス施設に対する新たな規準の要求へと導いた。一方、都市の側においても、連鎖店、デパート、通信販売などの新しい商業方式が導入され、このような商業資本が農村地帯へ進出したので、必然的に農村地帯の小さな中心地にあつても外部の要求や競争に対応して、衣料品店や牛乳処理施設のようなサービス施設はより大きな中心地へ移譲するというようなサービス構造の變革を遂げながらそれ自体の存続をはかっていると説明している。

かくて、これら一連の研究から、われわれはアメリカ農村社会には二つの型のサービス施設が存在しているという理解に到達する。一つは、ギャルピンが一商店型の中心地とよび、コルブにおいて、neighborhood 型ないしは第一次中心地(primary center)として他から區別されたものに関連する諸施設で、これには小学校、教会および雜貨店(後に食料品店に代る)が含まれる。

他方において、すでに中心地の役割分化が起つた以上、完全なサービスに対する欲求を充足させるためには各種の専門的なサービス施設をもつた、いくつかの中心地と接觸しなければならぬ。衣類、家具、新聞、高等学校、図書館、銀行、映画館などは明らかに、第一次的サービスとは異つた、より高次のサービスを構成し、中心地相互に依存し

あい、影響しあっている、ある地域的範囲が形成されている。

こうみてくると、この二種のサービス関係はアメリカの都市社会にも妥当していることがわかる。⁽¹⁾ ギャルピン、コルブラの一連の研究から学ぶべきもつとも重要な点は、都市から農村にいたる施設を媒介とする関係が支配、服従の体系的な構造をもつものではなく、あくまでも対等の関係にうちたてられた相互依存の性格をもつことをかれらが実証した点にある。

以上に述べたようなサービス施設に関する概念設定や分析の枠組は、個々の集落をこえて、さらに広域的な地域社会の構造を把握するための重要な手がかりを与えるばかりか、現実の生活条件改善への実践的課題に解答を与えることともなる。たとえば、交通、通信、商業、教育、文化、社会福祉等の施設計画が住民の欲求や関心を反映したものでなければならぬこと、施設の立地計画をたてるさいには施設の規模とこれを利用する地域的単位との関連を考慮しなければならぬこと、そして、その実現のためには集落相互の連帯、協力の体制が確立されねばならないことなどを示唆することになるのである。

注

- (1) Donald L. Foley, "The Use of Local Facilities in a Metropolis," AJS, 58 (Nov. 1950), 238-246.

付記

本稿をまとめるにあたって、関清秀教授および笹森秀雄助教授から御懇切なる御指導、御教示をいただいた。ここに記して謝意を表したい。